



主唱 / 法務省
MINISTRY OF JUSTICE

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第75回 社会を明るくする運動

7月は“社会を明るくする運動” 強調月間・再犯防止啓発月間です

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、
犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの
更生について理解を深め、
それぞれの立場で力を合わせ、
新たな被害者も加害者も生まない
安全で安心な地域社会を
築くための全国的な運動です。



“社会を明るくする運動”に参加しよう！

● 更生保護や“社会を明るくする運動”についてもっと知りたい方は

社会を明るくする運動ウェブサイト



● お問い合わせはお近くの保護観察所まで

保護観察所

検索

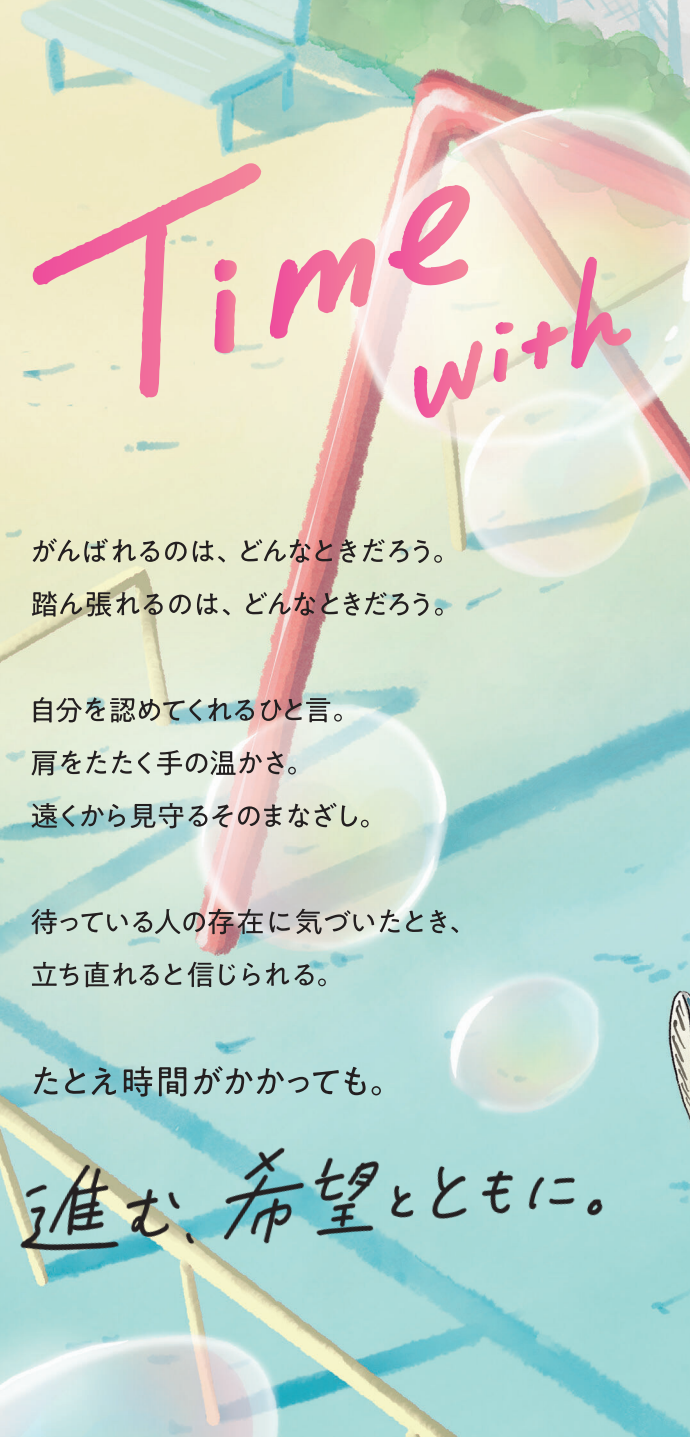
法務省保護局
公式X
アカウント



法務省
公式YouTube
チャンネル



法務省保護局
公式Instagram
アカウント



がんばれるのは、どんなときだろう。
踏ん張れるのは、どんなときだろう。

自分を認めてくれるひと言。
肩をたたく手の温かさ。
遠くから見守るそのまなざし。

待っている人の存在に気づいたとき、
立ち直れると信じられる。

たとえ時間がかかっても。

進む、希望とともに。



犯罪や非行から立ち直るために必要なものはなんでしょうか？

自分が「変わっていく時間」を待っていてくれる人がいる。それに気がついたとき、決して簡単ではない更生への道のりであっても、希望を胸に、歩みを進めていけるはずです。

「社会を明るくする運動」は、どなたでも参加することができる立ち直りを支える活動です。

立ち直りに向け「変わっていく時間」は、私たちの身近なところに流れています。一人ひとりが考え、理解し、行動することで、立ち直り支援の輪が広がっていきます。

さあ、皆さんも一緒に考えてみませんか。人と人々が希望とともに支え合う、安全で安心な社会を目指して。

理解を深め見守る

自らの過去と向き合い、罪を償って立ち直ろうとしている人たちへの御理解や更生保護ボランティアの方々の活動への御協力を、よろしく願います。

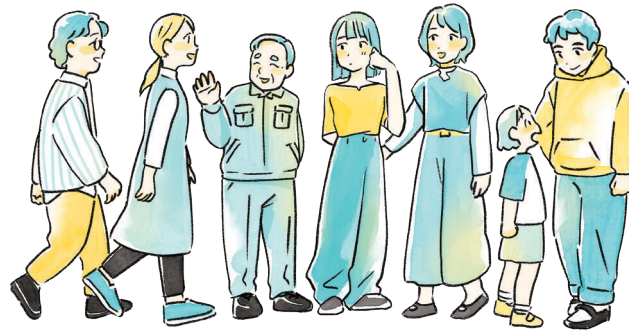
身近なところにも、立ち直りを支援する方法があります

活動を応援する

立ち直り応援基金は、犯罪や非行をした人の立ち直りに賛同してくださる方々の思いと、更生保護の活動とを結び、新たな被害者も加害者も生まない、安全・安心な地域社会を築くことを目的とした基金です。寄付金は、全国の立ち直り支援活動に大切に使われます。

立ち直れる。その思いをツナグ。

立ち直り応援基金



SNSをフォロー・拡散

法務省保護局のホームページやSNS等で、立ち直り支援に関する様々な発信を行っています。裏面で公式SNSを御紹介しておりますので、ぜひチェックしてみてください。

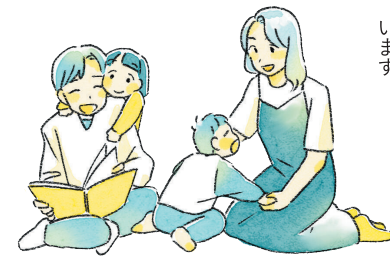
イベントに参加する

7月の強調月間を中心に、全国各地で「社会を明るくする運動」の様々なイベントや広報活動が行われています。お住まいの地域の活動に、ぜひ御参加ください。

地域のことを
ほっとけない

更生保護女性会

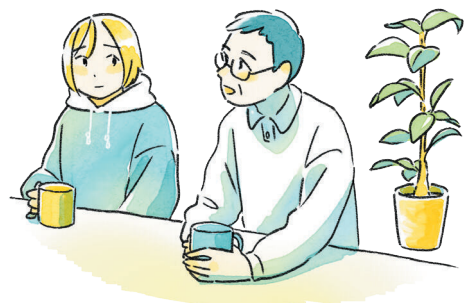
更生保護女性会は、地域の犯罪予防活動や更生支援を行う女性のボランティアです。非行問題を考えるミニ集会のほか、子育て支援活動など、多様な活動を行っています。全国に約12万人います。



更生保護ボランティアとして参加する

立ち直りを一番近くで見守る 保護司

保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるボランティアです。地域の事情などをよく理解し、保護観察官と協働して、保護観察を受けている人に面接を通じた助言や指導を行い、受刑者等が社会復帰する環境への働き掛けなども行っています。全国に約4万6000人います。



「就労」と「見守り」の両方を担う 協力雇用主



犯罪や非行をした人の立ち直りには、働くことが大変重要です。協力雇用主は、犯罪や非行をした人の自立や社会復帰に協力することを目的として、彼らを雇用しようとする事業主です。全国に約2万5000事業者がいます。



様々な問題を抱える少年たちと、兄や姉のように身近な立場で接することで、少年たちの成長を助ける青年ボランティアです。全国に約4500人います。

若い人の視点で立ち直り支援に参加 BBS会

社会復帰する人の居場所をつくる 更生保護施設・自立準備ホーム

刑務所などを出た後、住む場所がない人たちに宿泊場所や食事を提供し、自立に向けた支援等を行う民間の施設です。更生保護施設は約100施設あります。また、自立準備ホームは約500事業者が登録しています。

ほかにも、農福事業者、自助グループなど、立ち直り支援の担い手は様々です。そして、食育、スポーツ、アウトドアだっていい。立ち直り支援は、多様な支え合いを必要としています。